

ARCLE について

ARCLE の理念

これからの英語教育のグランドデザイン(ECF=English Curriculum Framework)に基づいて、幼児から成人まで一貫した英語教育を実現するための実証的な言語教育研究を推進し、発信していく。

- ① ARCLE の概要， 研究員一覧， 2009年度活動報告 90
- ② 研究紀要執筆要領 91

1. ARCLE の概要

正式名称 Action Research Center for Language Education
 (ARCLE / アークル)
事務局 (株)ベネッセコーポレーション内

2. 研究員一覧(五十音順, 敬称略) ※所属・肩書きは刊行時のもの

研究理事 アレン玉井光江(青山学院大学教授)
 金森強(松山大学教授)
 田中茂範(慶應義塾大学教授)
 根岸雅史(東京外国語大学教授)
 吉田研作(上智大学教授)

研究員 長沼君主(東京外国語大学講師)
 杳澤糸((株)ベネッセコーポレーション)
 吉池陽子((株)ベネッセコーポレーション)

3. 2009年度活動報告 ※所属は発表当時のもの

シンポジウム・ 上智大学・ARCLE 応用言語学シンポジウム(2009年12月) * 共催
講演・研修等 吉田研作(上智大学)
 根岸雅史(東京外国語大学)
 田中茂範(慶應義塾大学)
 アレン玉井光江(千葉大学)
 金森強(松山大学)
 長沼君主(東京外国語大学)
 吉池陽子((株)ベネッセコーポレーション)

日本児童英語教育学会(JASTEC)関東甲信越支部
児童英語指導法研究会 3月例会(2010年3月)
「調査データから見る小学校英語の現状とこれから」
杳澤糸((株)ベネッセコーポレーション)

1. 形式

- (1) 基本は日本語とする (Abstract, Keywords は英語)
- (2) 横書きで、ワープロ・パソコンの Word で作成
- (3) B5版, 余白は, 上下20mm, 左右25mm
1ページあたり39行, 1行あたり日本語は概ね40字, 英語は80字
10~15ページ程度(注・参考文献・グラフ・図表・数表等を含む)
- (4) グラフ・図表・数表は, 原稿本文中に入れ込む

2. 構成

*① ⇒ ⑦ の順

- ① 題目(日・英)
原稿の1ページ目の最初に, 日本語, 英語の順
- ② 氏名(日・英)
日本語表記の下に英語表記
- ③ 所属機関(日・英)
日本語表記の下に英語表記をイタリック体で表記
- ④ Abstract(英)
200 words 程度で, 英語で Abstract を入れる
- ⑤ Keywords(英)
Abstract の次に1行あけて, 論文のキーワードを3~5つ程度, 英語で入れる
- ⑥ 本文
・ Keywords の次に1行あけて, 本文を書き始める
・ 小見出しには通し番号をつけ, ゴシック体を用い, 前後に1行の空白を設ける
・ 和文の場合, 句読点は「, ｡」, カギ括弧は「」を使用
- ⑦ 注, 参考文献等
Publication Manual of the American Psychological Association (American Psychological Association, 2001)などに準拠